

社会医療法人 生長会 ベルランド総合病院 消化器内科

【住所】大阪府堺市中区東山500-3 【病院長】亀山 雅男 先生 【病床数】477床
【内視鏡検査・治療総数】8,722件(平成23年度)うち、上部内視鏡5,358件、下部内視鏡2,372件、
ERCP 408件、EUS 492件、ESD 62件、ほか 【スタッフ】医師7名(内視鏡専門医 5名、内視鏡指導医
3名) 看護師6名(うち内視鏡技師5名)



地域の医療水準を底上げするリーダー病院として 最先端の診断・治療技術をいち早く導入

地域密着型の急性期中核病院として 救急医療と高度専門医療を地域に提供

大阪府第2の政令指定都市、堺市にあるベルランド総合病院は、保健、医療、福祉、介護の幅広いサービスを提供する社会医療法人生長会グループの中で、地域に密着した24時間365日対応型の救急医療と急性期高度専門医療を実践する中核病院です。また、管理型臨床研修病院として研修医の指導、看護や各技術スタッフの教育育成にも力を注ぎ、安定した質の高いチーム医療を継続して行える体制を整えています。昭和57年の開院以降、一貫して「愛の医療と福祉の実現」を理念に掲げ、安心・安全な医療を提供すべく、地域の医療機関とも連携して切れ目のないトータルヘルスクエアを提供しています。

同院の消化器内科でも、消化器内科部長の安辰一先生と内視鏡センター部長の伯耆徳之先生が中心となって、病院の方針でもある“地域医療の推進”と“高度先進医療の充実”に尽力されています。安先生は、「胃カメラの検査よりもより精査を目的とした特殊な内視鏡検査や胆膵領域の治療内視鏡などが増えてきています。救急についても同様の傾向ですが、慣れたスタッフが臨機応変にサポートしてくれるので、高度な治療でも対応できます」と、最近の傾向についてお話しいただきました。伯耆先生も、「当科は外科、放射線科と連携して集学的治療を行っており、合同カンファレンスも定期的に行って日ごろからよくコミュニケーションを取っています。そのため、リスクの高い内視鏡治療でも、外科のバックアップのもと万全の態勢で臨めるというメリットがあります」とお話しいただきました。地域がん診療拠点病院として全領域のキャンサーボードも月例で開催されており、院内全体で連携した集学的治療を実践しているそうです。

最新技術の早期導入を可能にするのは 外科との連携と中核病院としての使命感

同院は急性期高度専門医療を行っており、消化器内科でもEUS-FNAや消化管ステント、EPLBDなどの最新の手技やデバイスをいち早く取り入れています。安先生は、「院長をはじめ、先進



消化器内科部長
安 辰一先生



内視鏡センター部長
伯耆 徳之先生

医療については“うちでやらなければどこがやるのか”という思いがあり、患者さんや地域から必要とされることはタイムラグなく提供すべきという方針になっています。最新の機器やデバイスの導入についても、明確な必要性があれば病院側の理解も得られやすく、例えば超音波内視鏡については、ニーズが高かったので保険収載前から取り組める環境にありました」とご説明いただきました。また伯耆先生は、「地域のリーダー病院として、新しい情報の取得と先進医療の早期導入は地域医療の充実のためにも欠かせないと考えていますが、こうしたことが実現できているのは外科の協力も大きいです。大腸ステントなどは外科との連携が必須であり、協業して患者さんをケアすることでメリットを最大化できると思います。当院の場合は他科と合同で行うカンファレンスも多く、情報交換が常にタイムリーにできるため、大腸ステント治療についても全国的に早いタイミングで患者さんに提供できたと思います」とお話になりました。先生方のお話から、院内全体で“患者さんのためになること、地域医療の充実につながること”を第一に考え、全員が同じ方向を向いて仕事をされているからこそ、臨機応変で柔軟な対応が可能なのだとということが伺えました。

▶次ページへつづく

病診連携だけでなく病病連携も推進し
地域医療機関全体のレベルアップをリードする

ベルランド総合病院は、平成15年に単独型臨床研修病院指定を受けており、消化器内科でも研修医や内視鏡専門医を目指す若手医師の教育を積極的に行っています。さまざまな最新医療に触れる機会が多く、また症例も豊富にあるため、消化器内科では若い医師がどんどん活躍する機会がたくさんあります。安先生は、「内視鏡はテクニックであり、ある程度実践しないとコツがつかめないということもあります。そのため、当院では若手の先生にもどんどんカメラを持ってもらい、傍について指導することが多いです」と言われ、伯耆先生も「検査数も増え、また治療の割合が増えているので、スタッフ数は決して恵まれているとは言えません。ですから逆に、若い先生であってもどんどん治療に参加して活躍してもらう必要があります。ですから、やる気があって腕を磨きたいと思っている若い先生にはうってつけの環境ではないでしょうか」とおっしゃいます。

院内の人材育成にとどまらず、消化器内科では地域全体の医療水準向上のため、様々な研究会や勉強会の機会を提供しています。安先生は、「当科では学会活動も推奨しており、積極的に参加及び研究発表をしています。学会参加で最新の情報を吸収することは本人の成長に寄与する一方で、その情報を地域に持ち帰って研究会や勉強会などで発表、共有することも重要な目的になっています。当院は病診連携だけでなく病病連携も推進しており、地域全体の医療レベルを上げるリーダー的な役割を担うことも求められています」とお話になりました。現在肝臓領域、消化器領域で多くの会が立ち上がっていますが、数年にわたり地道な活動を続けてきたことで消化器内科がどんな治療を行っているのかという情報が地域に徐々に浸透し、これまであまり紹介のなかった膵嚢胞やB型肝炎などの紹介患者さんが増えているそうです。



新病院完成イメージ図

2014年秋に新病院がオープン
現代の内視鏡診療に適した環境を計画

ベルランド総合病院は、2014年の秋に新病院がオープンします。新病院建設を機に内視鏡室も新しくなりますが、「近年ではセデーションを用いた検査や治療も増えてきているため、新病院では検査室の横にリカバリー室を設ける予定です」と話す安先生。病院全体の病床数は変わらないものの、今後さらに症例数の増加が見込まれるため、「患者さんをお待たせすることなく適切なタイミングで治療を提供できるよう、より低侵襲治療を推進して入院日数を短くするなどの工夫が求められていくと思います。そうしたニーズにタイムリーに 대응していくためにも、医師スタッフともに常に新しい情報を積極的に収集し、業務の効率化やより良い医療の提供を推進していきたいです」と、今後の展望についてもお話しいただきました。

年々高度化し、また多岐にわたる内視鏡医療において、最新の技術を貪欲に身に付け、またそれを広く地域に伝える活動もされている消化器内科のみなさん。多忙な中でも笑顔を決やさず、とても明るい雰囲気が印象的でした。こうした環境の中で、若い先生方もベテランの先生のバックアップのもと、どんどん新しい技術に触れながら技術を身に付けられるのではないのでしょうか。



消化器内科のみなさん